



§ 1 特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」

特定外来生物に指定されている「ナガエツルノゲイトウ」は、1989年に兵庫県で確認されて以降、茨城県以西の21府県での発生が確認されています。繁殖力、再生力が強く、大群落になると駆除は極めて困難になるため、まん延防止のため早期発見、早期駆除が重要となり、行政も注意喚起しています。

<特徴>

主に水辺で生息する南米原産のヒユ科の多年草です。水草で河川、水路、水田などで生息し、繁茂すると稲の倒伏、減収、機械の作業性の低下につながります。茎の節から発根し、茎がちぎれやすいため、断片が増殖源になります。また、乾燥にも強く、畑地にも侵入します。



<防除方法>

刈払い機による機械除草は行わない：刈払いにより断片が農地に拡散する恐れがあります。

（節や根から活発に再生するため、断片が残らないようにします。）

除草剤による処理：水田内、畦畔で使用可能な除草剤を使用します。

抜き取り・剥ぎ取り：生育初期に除去することが有効で、抜き取ったらゴミ袋等に密閉し、散逸させない場所で枯らすか焼却処分します。



水田内の侵入防止：吸水口にネット(4mm目合)を取り付け、侵入を防止します。

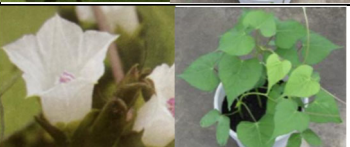
使用可能な薬剤

本田	初中期一発剤	ピラクロニル含有剤	イッポン、イネキング、メガゼータ、兆 等
	中期剤	フロルピラウキシフェンベンジル	ウィードコア1キロ粒剤
	後期剤	フロルピラウキシフェンベンジル	ロイヤント乳剤
	収穫後	グリホサートカリウム塩	ラウンドアップ、サンフーロン 等
畦畔	3-4月	DBN	カソロン4.5
	田植以降	フロルピラウキシフェンベンジル	ロイヤント乳剤
		グリホサートP ナトリウム塩	ザクサ液剤
		グリホサートカリウム塩	ラウンドアップ、サンフーロン 等

§ 2 大豆圃場における「帰化アサガオ類」

「帰化アサガオ類」とは、外国から日本に導入し、水田転作畑や飼料畑で雑草害をもたらしているサツマイモ属の一年生植物の総称です。北南米・熱帯アメリカが原産地で、「マルバルコウ」「ホシアサガオ」「マメアサガオ」「アメリカアサガオ」「マルバアメリカアサガオ」などが挙げられます。帰化アサガオが難防除雑草として問題となりました。戦後以降、輸入穀物や穀物飼料に雑草種子が混入し国内に持ち込まれたと考えられています。ツル性植物である帰化アサガオ類は、発生期間が長く、出芽後2～4週間でつるになります。つるになり密度が高くなると防除が大変困難になります。また、1株から数千から数万粒の種子をつくり、その種子の寿命が長く、土の中で何年間も生存し、水田にしても死ぬことはありません。一度圃場内や地域でまん延するとますます、防除が困難になります。圃場や圃場周辺にも気を配り、よく観察して、発生初期段階、花が咲いた時期(種子が出来る前)に防除することが重要となります。

<帰化アサガオの種類と特徴>

	マルバルコウ 葉に毛がなく、子葉の切れ込みは小さく丸みおびています。 花はオレンジ色で直径が 1.5—2cm です。
	ホシアサガオ 葉に毛があるがめだたない。子葉の切れ込みは深くとがっています。 花はピンク色で、直径が 1.5—2cm です。葉から飛び出して咲くように見えます。
	マメアサガオ 葉に毛があるがめだたない。子葉の切れ込みは深くとがっています。葉の縁が紫になりやすく、花は白色でまれにピンク色があり、直径が 1.5—2cm です。
	アメリカアサガオ 葉やつるやガクに毛が多く、子葉の切れ込みは小さく丸みをおび、ガクはつぼみの頃から先端が細長く大きく反り返っています。 花は赤色～青色と様々で、直径が 3cm くらいあります。
	マルバアメリカアサガオ アメリカアサガオの変種で、葉に切り込みがありません。

有効な茎葉処理除草剤

品名	使用時期	薬量	散布方法	収穫前日数
大豆バサグラン液剤	だいの 2 葉期～開花前	100～150ml	雑草茎葉散布又は全面散布	収穫45日前まで
	だいの生育期	300～500ml	畝間雑草茎葉散布	収穫45日前まで
アタックショット乳剤	本葉 2 葉期～開花前	30～50ml	雑草茎葉散布又は全面散布	収穫45日前まで
ザクサ液剤	は種・定植前又は畝間処理	300～500ml	雑草茎葉散布	収穫28日前まで
バスタ液剤	耕起前・は種前・は種後出芽前	300～500ml	雑草茎葉散布	収穫28日前まで
	定植 5 日前・畝間処理・株間処理			